

## 「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対する

### パブリックコメント（意見募集）の結果

- (1) 募集期間：令和2年1月14日（火）から2月3日（月）まで
- (2) 募集方法：広報やわた1月号、市ホームページで募集。  
「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」を市ホームページ、市役所閲覧コーナー、子育て支援課窓口で公開。  
意見提出は、郵送、ファックス送信、市ホームページからメール送信、子育て支援課へ持参のいずれか。
- (3) 意見者数：4名
- (4) 意見数：20件

「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対するパブリックコメントの意見と市の考え方

番号	分類	意見要旨	意見に対する市の考え方
1	子どもの豊かな育ちを支える良質な教育・保育の推進	<p>●公立幼稚園の園庭開放の日数を増やすことは可能か。</p> <p>近年、子どもの遊び場が減少。他市の公立幼稚園では毎日時間を決めて園庭開放をしている。遊び場所の確保だけでなく、子どもにとっても良い刺激になるのではないか。</p>	<p>現在、公立幼稚園の全園で園庭開放を実施しておりますが、日数の増加につきましては、職員体制の確保といった課題があると考えております。</p> <p>なお、本市では、平成29年8月に八幡市子ども・子育て会議からいただいた「八幡市立就学前施設の再編について」等の答申に基づき、市内の公立就学前施設を再編し、認定こども園に移行する計画を進めています。</p>
2	幼児期からの一貫した教育・保育の推進	<p>●認定こども園化の推進の取り組みはとても良いと思う。</p> <p>特に公立幼稚園の認定こども園化</p>	<p>認定こども園には、地域への子育て支援として、未就園の親子が集う場の提供等が求められており、それを実施するための職員体制も必要となることから、園庭開放についても移行に合わせて拡充していきたいと考えております。</p>
3	地域子育て支援拠点事業	<p>●子育て支援センター施設の充実をしてほしい。</p> <p>すくすくの杜の利用に関して、交通の便が悪く、近隣の方のみの利用になっているようなことを耳にする。すくすくの杜は無料で利用できるとても素晴らしい施設なので、もう少し多くの子育て中の八幡市民に利用しやすい施設になればと思う。</p>	<p>すくすくの杜の利用につきましては、市内利用者の約半数は美濃山小学校区の方となっておりますが、残りの半数は他の小学校区の方が利用されており、美濃山小学校区、橋本小学校区、くすのき小学校区、八幡小学校区の順となっております。</p> <p>すくすくの杜を中核とした地域子育て支援拠点事業を、現在市内3か所の子育て支援センターで実施しております。今後も身近な地域における子育て支援の拠点として、各施設の特徴を生かし、利用者のニーズに柔軟に対応できる供給体制を確保いたします。</p>
4	子ども・子育て支援事業の充実	<p>●すくすくの杜のような施設が八幡市に複数箇所あっても良いのではないか。(例えば、第四小学校や第二幼稚園の敷地を利用して、子育て世代の多い地域に新設する等)</p> <p>橋本地区や八幡駅周辺の子育て世代は、すくすくの杜が利用しにくいのではないか。</p>	
5	子ども・子育て支援事業の充実	<p>●雨の日でも利用できるような遊び場があると助かると思う。</p>	<p>市内には、体育室や図書室など雨の日でも子どもが遊んだり過ごしたりできる施設として、南ヶ丘、橋本、指月、竹園の各児童センター及び、有都交流センター内の児童ルームを設置しております。また、体育室はないものの、屋内で卓球等の遊びができる施設として、八幡こどもセンターを設置しております。</p> <p>今後も施設の周知や行事の開催など、子どもたちが雨の日でも楽しく安全に過ごせる施設の運営につとめてまいります。</p>

「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対するパブリックコメントの意見と市の考え方

番号	分類	意見要旨	意見に対する市の考え方
6	子ども・子育て支援の推進	<p>●子育ての不安解消のため「離乳食教室」は有益なのに、利用者が減少している。ネット等で離乳食の作り方を映像で簡単に見られる時代。直接先生に教えてもらえるのはありがたいが、今後「ママさん同士の交流の場」という面を強めてほしい。</p>	<p>本市では「離乳食教室」と子育て支援センターで開催している「離乳食講座」があり、どちらも「親同士の交流」が大切であると考えております。</p> <p>離乳食教室は、マタニティスクールと同時開催し、離乳食講座は、複数の施設で離乳食初期・中後期・完了期に分けて行っており、全体としての利用者数は、ほぼ横ばいとなっております。</p> <p>調理実習中、赤ちゃんは別室で職員や保育ボランティアのサポーターが保育しますので、参加された方は、その間育児から離れ、子どもの月齢に近い母親同士が栄養士や保健師・保育士と一緒に調理しながら、互いの子育てについて話したり悩みを相談したりできる交流の場となっております。</p> <p>講座終了後も、参加された親子同士と一緒に遊ぶなど、講座がきっかけとなって、親同士のつながりができている様子が見られます。</p> <p>今後も親同士の交流や子育て不安解消につながるよう、講座の持ち方を工夫してまいりたいと考えます。</p>
7	総合的な放課後対策の推進	<p>●「新放課後こども総合プラン」として放課後の居場所と学習の一体的な提供の取り組みを考えているが、具体的な企画はあるのか。</p> <p>放課後学習クラブについて、学習向上のために頑張って参加している児童が多数いる一方で、居場所として参加している児童も少なからずいる。放課後の居場所と一体化して学習クラブを位置づけるには少々無理があるのではないかと思う。また子育てや生活で必要としている支援（アンケートより経済的な暮らし向きが「苦しい」人の回答）で、教育費の補助以外に無償の学習支援を必要としている割合が30%近くあったことから、その事も考慮して放課後学習クラブの位置づけを改めて考えるのはどうか。</p>	<p>放課後の居場所と学習の一体的な提供の取組につきましては、小学校5・6年生を対象にやわた放課後学習クラブに取り組んでおります。やわた放課後学習クラブの位置づけとしましては、自学自習力と学習意欲の向上を図る場であるとともに、放課後の居場所でもあり、その両方の側面が児童を育み、学力向上や豊かな人間性の育成につながると考えております。</p> <p>全ての児童が放課後等を安心・安全に過ごせるよう、事業の現状と課題を整理し、検討いたします。</p>

「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対するパブリックコメントの意見と市の考え方

番号	分類	意見要旨	意見に対する市の考え方
8	総合的な放課後対策の推進	<p>●放課後の児童の居場所に関しては、保護者・児童の中でも要望が分かれているのではないかと。</p> <p>①塾に近いような学習の場を求めている人                  ②児童が安心して楽しく過ごせる場を求めている人                  ③①と②の両面を求めている人</p> <p>実際には、③の実現はなかなか難しく、中途半端なものになるのではないかとと思うので、①と②を明確に分けて、その活動場所を保障することに取り組んでほしい。</p>	<p>やわた放課後学習クラブの位置づけとしましては、学習の場か居場所かのいずれかではなく、自学自習力と学習意欲の向上を図る場であるとともに、放課後の居場所でもあり、その両方の側面が児童を育み、学力向上や豊かな人間性の育成につながると考えております。</p> <p>このことを踏まえ、今後もニーズに対応できるよう、内容の工夫等についての検討が必要であると考えております。</p>
9	放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室の一体的な実施について	<p>●放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室の一体的な実施については、是非実現して欲しいと思うが、両事業の一体的な実施は、学校・教育委員会・地域など、多くの課題があつてなかなか進んでいかないのでと懸念される。具体的に段階的な年度ごとの計画を示すことで、目標に近づくのではないかと。</p>	<p>ご意見いただいたとおり、放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室の一体的な推進には様々な課題があります。</p> <p>本計画素案23ページに記載しておりますとおり、各事業の現状と課題を整理した上で、目標の設定も含めた検討が必要と考えております。</p>
10	子育て家庭を社会全体で支えるまちづくり	<p>●これからの子ども・子育て事情は、ますます厳しくなっていくのではないかと考えており、不登校や子どもの虐待・貧困の問題・子育ての不安等々、共働きの若き世代にのしかかることを、少しでも和らげるために、高齢世代が、もっと参加できる仕組みを、行政と地域市民がともに考えることのできる基盤づくりができれば、この事業計画が意味あるものになると思う。</p> <p>なかなか市民主導ではやりにくい面が多々あるので、行政主導でかじ取り役をしてもらえれば、前に進めると思う。</p> <p>地域の身近にある施設や公民館が、貸館やイベントを行う役割だけでなく、この厳しい現状に対応できるコミュニティづくりを目指して活動展開ができれば良いと思う。</p>	<p>第2次八幡市地域福祉推進計画において、住民同士の支えあい活動を基にした地域づくりや誰もが安心して暮らし続ける仕組みづくりを推進しております。</p> <p>地域の手で抱えている課題を共有する場づくり、解決できる仕組みづくりができるよう、今後も推進してまいります。</p>

「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対するパブリックコメントの意見と市の考え方

番号	分類	意見要旨	意見に対する市の考え方
11	子育て家庭を社会全体で支えるまちづくり	<p>●地域で子育てを支援することは、大変重要であるが、具体的に何ができるのか。近隣との関係が希薄になっている現状を少しでも改革するために、講習・イベント等の他に日常的に地域住民が具体的にできることを打ち出すべきではないか。（「赤ちゃんトーク」、「八幡では子育てママさんにご近所の住民が声かけ運動をしています」等）</p> <p>高齢の方から「近所のかわいい赤ちゃんを見かけても、こんな時代、なかなか声をかけられない」という話を聞いているので、何か突破口が必要と思う。</p>	<p>慣れない子育てに不安を感じ孤立感をもつ子育て家庭にとって、地域の方々の温かいまなざしや声かけなど、見守ってもらっていると安心感をもつことや、相談に乗ってもらえることは、とても大切なことですが、地域とのつながりが希薄化する中で、見知らぬ方からの声かけに不安を抱かれることも考えられます。</p> <p>子育て支援センターでは、親同士または親子での交流を図るための様々な事業を行っておりますが、今後は、子育ての同世代だけでなく、地域の中で幅広い世代の方々との交流を図ることができないかなど、様々な方面の方からのご意見もうかがいながら、地域での子育て支援について検討していきたいと考えております。</p>
12	子育て家庭を社会全体で支えるまちづくり	<p>●福祉委員が地域で子育てサロンをしている地区もあるようなので、そういったボランティアの力を活用する取り組みもあれば良いと思う。</p>	<p>児童センターでは、ボランティアや地域の方による絵本の読み聞かせ、ダンス、将棋など各種活動にご協力いただいております。</p> <p>また、市では、児童センターや公民館などの施設を利用して、地域で活動している子育てサークルへの活動支援を行っており、子育ての不安の解消と地域における子育て支援の促進を図ります。</p>
13	子どもの安全を守る生活環境の整備	<p>●公園の遊具の安全性について、滑り台等の遊具について、対象年齢が乳幼児でも適用できるものも設置してほしい。</p>	<p>遊具の安全性につきましては、指定管理者である八幡市公園施設事業団による日常点検を行い、事故に繋がる恐れのある危険箇所を発見した場合には適切な措置を講じ、安全確保に努めております。</p> <p>遊具の対象年齢につきましては、3歳から利用いただけるひと回り小さいスベリ台、ブランコ、鉄棒、スイング遊具等を市内多くの公園に設置しております。</p> <p>対象年齢が3歳未満の遊具につきましては、公園利用者間の安全確保の観点から設置しておりませんが、3歳未満の子どもが安心して遊べる遊具は、すくすくの杜など地域の子育て支援センターに設置しておりますので、こちらもご利用いただければと考えます。</p>

「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対するパブリックコメントの意見と市の考え方

番号	分類	意見要旨	意見に対する市の考え方
14	子どもの安全を守る生活環境の整備	●公園によっては、整備が整っておらず(雑草や遊具のさび等)、安心して子どもを遊ばせることができない場所がある。	公園の雑草につきましては、地元自治会などと、清掃管理委託を行っている公園につきましては、地元自治会などに適切な清掃及び除草作業をお願いしております。その他の公園につきましては、指定管理者である八幡市公園施設事業団により清掃や除草などの管理を行っております。
15	子どもの安全を守る生活環境の整備	●いつ通りかかっても誰もいない公園を見かけることが多い。もちろん子どもづれの人、高齢の人も見かけない。ボール遊びを禁じ、犬の散歩も禁じ、公園は今、どう機能しているのか。有効利用について考えてほしい。	公園はレクリエーションの場として、また都市景観の形成や防災面、それぞれの地域づくりのため設置し活用いただいております。しかし、少子高齢化や社会環境の変化に伴い、公園に求められる機能も変化してきており、今後は様々な検討も必要であると考えております。 公園のボール遊びにつきましては、これまで他の公園利用者間の安全についてのトラブルが生じた経過があり、原則禁止としております。 また、犬の散歩につきましても、糞の後始末などマナーに関するトラブルがあり、原則禁止としております。
16	配慮を要する子どもと家庭を支える環境の充実	●配慮を要する子どもと家庭の支援の充実をしてほしい。 アンケート調査結果(P.10)で支援が必要なのに利用できない理由として「誰に相談したらいいかわからない」、「十分な情報がない」との回答があり、特に配慮を要する子どもと家庭の支援が乏しいと感じている。また配慮を要する子どもの対応に対しての研修や講演等で情報の機会を増やしてほしい。	子どもの相談については、健康推進課で保健師等が、就学前までの乳幼児に関するあらゆる相談に応じているほか、家庭児童相談室では、18歳未満の子どもに関するあらゆる相談に専門の相談員が応じ、必要な場合は他の専門機関への紹介を行っております。 特に配慮を必要とする子どもへの支援については、健康推進課では発達等に配慮を要する乳幼児に対して、発達健康相談などを実施し助言を行い、家庭児童相談室では児童虐待未然防止の観点から、養育に心配のある家庭支援についての研修会を開催し、市民の方にも参加して頂いております。 障がい福祉課では「地域生活支援拠点」を設置し、障がいのある人やその家族からの相談を受ける体制を整えており、支援の充実のため「児童発達支援センター」の設置に取り組んでおります。 いただいた意見の趣旨を踏まえながら、市の関連計画などと連携し、当事者ほか、関係機関に必要な情報が提供できるよう配慮し、支援の必要な子どもと家庭の早期発見や早期支援に向けた連携を進めてまいります。

「第2期八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）」に対するパブリックコメントの意見と市の考え方

番号	分類	意見要旨	意見に対する市の考え方
17	安心して出産・子育てできる環境の整備	●小児医療の支援について、2次救急医療体制及び小児救急医療体制の整備は大変助かるが、八幡市内受け入れの病院があるとさらに良いと思う。	2次救急医療体制及び小児救急医療体制など、小児医療体制の継続及び充実に向けては、医師の担い手不足が課題であると認識しており、小児科医の確保に向けた仕組みづくりを京都府に要望しております。
18	安心して出産・子育てできる環境の整備	●2歳児の健診は行われていないのか。	本市では、母子保健法に定められております1歳8か月健診、3歳児健診を実施し、また4か月健診も実施しております。 2歳児健診は実施しておりませんが、健診年齢以外の乳幼児の相談に関しましても家庭訪問、電話相談、すこやか子ども相談等にて対応しております。
19	子どもの貧困対策の推進	●ひとり親家庭の環境は、行政の支援が大切だと思う。他の市町村では子ども食堂等の支援を多くされているように感じる。	本市におきましても、市内の地域や団体等が実施または、実施を検討している「子ども食堂」に対して、情報提供及び関係機関との連携支援を行っております。 また、NPO法人が平成30年度より実施しております「フードバンク子ども支援プロジェクト」においても協力を行っており、ひとり親家庭や経済的に困窮している世帯を対象とした食品配送支援につなげるなど、子どもの貧困対策に取り組んでおります。
20	ファミリー・サポート・センター事業	●ファミリーサポート制度について情報公開をしてほしい。 アンケート結果では、サポートしてもらえ人がいる割合は8割あったが、誰もいないと回答した人も少なからずいた。そのような人がファミリーサポート制度を利用しているのか、どのような時に利用しているのか、サポートしている人の現状等を知りたい。	就学前児童対象調査では、回答者数1,443名のうち、128名の方が「(サポートしてくれる人が)いずれもない」と回答していました。 「いずれもない」と回答した方のファミリーサポートセンターの利用状況については、平日の定期的な利用が1名、子どものけがや病気の際の利用が1名、急な用事の際の不定期な利用が4名となっております。 ファミリーサポートセンターの現状は、年間936件(平成30年度)の利用があり、保育園・幼稚園などの保育施設や放課後児童健全育成施設への児童の送迎及び預かり、保護者外出等の際の預かりなどで利用されており、利用件数はここ数年間毎年増加しております。 引き続き、広報活動や講習会等の開催に積極的に取り組み、周知と安全面の確保につとめてまいります。